

祝 辞

剛柔流空手道ミッション インターナショナルが創立30周年をめでたく迎えられましたことに深く敬意を表し心からお祝いを申し上げます

同じ剛柔流空手道を学ぶ者として幾つかのエピソードをご披露してお祝いの言葉と致します。

海外での空手道の指導は、私達日本国内の指導者と異なりご苦勞も多かったと考えます。30年の永きにわたり様々な事に直面されながらも、拳宗先生の剛柔流空手道に対する高い志し、熱い思い、そして強い精神力によって決して投げず、決して逃げずに頑張った30年と思います。オーストラリアはじめ世界各地での拳宗先生の活躍は実弟の私にとっても本当に喜びであり心からの目標であります。

私は1967年より拳宗先生が開いた初めての道場であるSEIKO空手道部に当時はまだ高校生ではありましたが入部を許可され拳宗先生の弟子として指導を頂きました。それ以来現在まで剛柔流空手道の修行を人生の柱として頑張っておりました。その意味から言えばオーストラリアをはじめ世界各地で拳宗先生から指導を受けている道場生は私にとって同門であります。ゆえに皆様の先輩であり拳宗先生の一番弟子と考えています

私はSEIKO空手道部「秀武会」当時の事を今でもよく思い出します。工場内の道路が稽古場で雨が降れば社員食堂が稽古場になります。拳宗先生も若く、部員達も17~20代前半で若さと活気溢れる元気いっぱいの稽古だったと思います。ある日組手の稽古の時に褒められたことがあります。その技のことは今でもはっきり覚えています。このことが私が剛柔流空手道を今でも修行を続ける原動力であり原点でした「敏由記！あの技いい技だよ、それ、それだよ」この一言に拳宗先生の指導者としての愛、熱い心を感じました。私は当時~現在まで拳宗先生から学んだ剛柔流空手道に対する思いや考え方、心、技の使い方など沢山のことを自身の修行の場である秀武館で実践し多くの道場生を育成してまいります。

これからもご指導宜しくお願い致します

終わりに剛柔流空手道ミッション インターナショナルが30周年を大きな節目として更なる隆盛を極められ、また拳宗先生ご自身におかれましてもお身体を充分自愛の上永くご壮健でご活躍されます事を心からお祈り申し上げます。

2010年1月吉日

剛柔流空手道秀武館
館長 渡邊敏由記